俳諧一葉集

佐藤鶴吉

さらのほん

俳諧一葉集序

花ちりくもひさしかるへきものを生とし生けるものつねの歌をよみてけるとのやうに家をきく人をよろこはしむと俳諧もまたかくのごとしそもそも芭蕉庵桃青翁八三十四まで江戸に住して其間の句稿ひとつとして其角の編集せしものなし晩年に至りて七情をくはへ百八の煩悩を活して生涯を終り古今集の大切の心

歌をよく杜律山家集の稿をあつめて貞享の初年はじめて狂句を発句の酒肴を業一人情を述句を寓一文章紀行をそなへて俳諧道の称とゆふべしはじめおよそ四海あふぎ尊ぶ人をかぞへ桜部の概まを稱する門弟千数をしるすべきとぞいふ人幾千といふ大元千国しるすべきとぞ胃をあらひ大元千国しるすべきおのづから斗筲の量狭千年遠去千生れ師友ともくひかたれ

此ひとり古学徒とはうて祖翁の一変千ちまちまち行脚物をゆかしかりし尋千ものくをもとめ受千とぶ尚白ようの清風遠俳の志ひきをうつし集めて共ひとつ巻の一といふ千ちふひを俳諧一葉集と題し板さんとまとめさんとかれを訂古道千西まを非ひう見るてはしく村肝をきさみこゆれ舎を道場千つとれハ三年まをふをいふ旅千ひとりの雲ら友人坎壈の函底をうかがさ金ふとなをうらあハれのぼ千はまて大事ハ

身を養さんよりハ志の深き此仙境に入て終に和国
の士人の心法を授さい〻ふて自然を悟る水を
通き氷を打て人を焼さ巧拙を窮ひ一生を尽利
あ中〻そ〻ぎけれ共仙法を勉て速に仙法を
ゑ得て世のちり俗を捨へしとを来る
乃翁を〻て石室の煙こ年諸を

文政丁亥仲秋

四辟老湖中

凡例

一歌句の部寛文延宝天和時代の分ハ四季ともに
帖のはしめ石室貞享元禄の分ハ本体にて
手家にて義学季の分ハ発書を出す
一同歌き書くべ〻る句武ハ行脚の伝或ハ俳友
に伝へ〻古書を所尺ふ〻多和を粧ま〻
ゆ和ハ書紙にして手季しの書に載
一附合の部ハ延宝より元禄まて年歴をくく
次第に一書に和羽一書の抄りをしる志

一同二百三百成八五百七百枚の銭八手漉の赤に載

一同古集大うゝ寛文中宗房と号う延宝天和之頃

桃青成八芭蕉とゝ貞享うゝい八翁と号う信

是千俵ゝ

一文の新石の頃八不猫地に越人の出るとゆゝけし

為千ゝ中くゝ楳掃の設翁の作ゝ中の物し然

ゝゝゝ文集ゝ蕉ゝ宥ゝ入ゝ八みゝゝ有ゝ

接ゝ中ゝ八赤帖ゝ載

一文屋会ゝゝ八解役地のたゝいのゝにゝゝ

紀行なゝの中ゝ花ゝ粗ゝ精ゝ作ゝ文物ゝ

物ゝゝゝく記ゝ旅人の考ゝゝ

一遠流の新祖翁の流ゝゝ一時の戒れゝゝ

拾ゝゝゝのひゝゝ岸

一同加の書ゝれみゝのく世ゝ長く作ゝ手大

同小ゝゝ和千服ゝ人ゝ作ゝ為八重積ゝ

載

俳諧一葉集 發句春之部

古學庵佛考 編
幻窓 湖中 校
坎窩 久藏

寛文延寛天和季中

夜訓の注床後文庫よりの書
昔白ふや苔寺道 枕書 の文
糸年を棚へ掛てわかるる
手や人々もしれしいのちうり来
歯屋の紫くもちもちの後乳
かいるんとつくりうりきうり来

もて来つる是ぞ手玉らるる玉
梅　春く大ル哉春と云　く
　文約蔵功の
餅をいやすす杉詩曽祖の子　枕
　季吟　勅撰中書
和歌の法とふや生ものの八重ゝ
此梅千生ゝ和歌と呼り色し
古此の梅や嶽　波の二年　載
梅ゝや志らゝおちゝ京右卿
志ほ一ゝ是風とすゝぬ春の羽
梅　梅　ゝて若葉うれ如ゝ
杉風寄恵

さゝけ　ゝ二月中旬七川菊
吉手ハゝやそゝまゝ社よ次郎月
和ゝの春へつひの崩れまゝかゝひゝ
夢ゝすゝく白魚やゝハ酒ぬ屋
石川小銀生の今年山店子香法れて
陸ゝゝて芹の飯ゝ生て保川ゝて
枝ゝ生ゝゝれ青泥坊庭の芹ゝ切ゝ
千代の俤ゝゝ子おれ
赤ゝ色ゝの　鄭　浦　跡す芹の食
平ゝ　ゝんや墨ゝ芹焼ゝ入て
さゝゝ氣ゝ梅ゝすて引　ほ
梅咲や白の　枝本のゝ如ゝ

竹内一枝折りて
春ハ梅花一枝のみぞさゝる
けふ東風や匂ひさくらむ　梅嫉
餅ならとしらぬとなすやらむハ
なふひのん菩提の種を蒔かれ
志ら魚に価ひてゝうらみなれ
菖摘て貧なる女操ニよ偽
内裏雛人形天皇の御宮とや
名所八体の内　二句
見よすゝ風の手すさびや和哥の浦
嫉みて帰り一夜しらるきてすか
摘けんや芽を木枯の話しもして

山吹の霧の葉の色のからち魚なるや
夏方知酒聖貧始覚詩神
花すらむ世に海老く食ふし
雨降られハ
芋殿の庭おりて帰らむ山伏ら
薪の肴を拵らしてや紙月
花その母の用も尽しらり鬼薊
うちふ山やお掛しる侭の気さうり
蕗の気にも咲きぬり桜海苔
紅毛も花ニ来ぬり一ろて鞍
娘桜咲やむ惜のおもひむ
糸さゝしうや咲るきの足もつれ

吹風を尾花の下くさるや大さくら
艶なる奴も見るや後家の涙
夏をしる花に角くく花の風
和漢を人くしもとくるる
うまれる人やさくらをみ山桜
花のもとにて貴白雪れ作て
芭蕉を吹ぬるけまれ香う麦袋
まに風を吹出し笠ふもとふ
やしの花や麦三郎うよりの山
てきちくくくてふ来るもと風
和もていのち七十五年作
はくしや花くくるるふはぬめく麦

元禄や宜竹ら尺八を吹の雲
寒さ丸万丸多辞集の花尺ふ
氏さし生立ちしや麦の根
道雪の附
ちと尾しの友うや百死活くれ
李白芭蕉を路る
さき我樹を先みくむ萩の二葉哉

貞享元禄年中

まこと中 新手 古今 米五升
尾手ゆくて
いくまくらう芭蕉の松うさう

山家遊志

後増ア畠桑千　蜂抱不留のとし
伊勢から宮家より来りて千代の賀
嵐雪から亨より正月小袖を贈られハ
後ゆかり姿千代より舒の春
其の絆滝をしまんと旧友の来りて
酒興しかりまえ年の屋ますて昨ゆけ
初の尺ぞつして
二日千とめかりハきし乳花の要
角をむ師の信りて尺れハの御影の
こころ尽をとても粉
厳気をしみ紀そふ来れ庵かなと

京たらふ和千蕾とくりて
こま紙見し見れ人いなまち恋の春
御旅の営為庵千蕾をむかふ好三
はわとすて髭四日
大津絵の筆のはし見ハ何　佛
人とんぬ春や鏡のうつり比　梅
まし秋や鶴千見をとるさうの庭
えらそれ国無のはなりう窓しけれ
蓮華千ゆそや伊勢の御便
きたしに教へゆうむ衣もうちつ
古畑千蕾摘ゆくをととれ
一とせ千一度つかつし蕾への韻

菊菊千さいあて実の行わの業れ

風麦亭

きさらくやさんれる社殿山うれ
大き枝やしら社家を引て一うきみ
きあれや名もなく山の新蕊
正月名ゑみ淀と近江や関月
うくひすの笠ゑ蕊しる枯こゑ
あ正さうし

貴きき蕊ゆる折れきやしら社
雪や梅のうしの数の雪
うくひすや梅より蕊すう梅れを
あくの雪の戸と吾付きまて

おくまよりて手先しうをの
ひくう菊きをもたうた垣結
社梅きうあうをとうれん
あるよりひられ分のをの隙
の梅をさふ姫とやきふ
雪うしあひて鶴付きて
菊きて来て梅きよをの垣根
伊賀のあう分て
梅鳥ちをきも梅をあうう
訪山居
梅さうしきのあ郭をぬを
雛咲てうう社家きあ

紅梅や尺あまりつくる玉まくら枝
梅ありて樹ちかきやどふる枝す　南
山里や万葉ぶりなる梅ぶり
家良
昔人の心をしらうめの花
卓袋亭月待
月やたちや　棋のしけゆく小夜
山家
手洗うむすまくに梅ぶり外
伊賀の山家
うみとしふる物ぶり高
ちぶりむし　蒙　ちぶりゆふ
本ちあふれ黒もあり　ま

長野ちの家野也ふれを考
て曰本科ニ不家ちとあるいうちヤ
伊ちぶ氏ちうみ筑ちふ　まんい
めつ

長年月ふうみほう家ぶ梅の花
一ちを梅のやうぶ梅ぶをうた花
ちし伊の伊ちぶ人ちふ伊ぶ
氏ちみちのぶくぶ尺ちゆくちぶ春
家長ちを詩ふれ
又ちちく藪の中ふ梅のうれ
伊賀ふ
おちぶ家ぶ一ちゆふ梅の花

細代氏新うゑ集て毎
樺の木てゑ[illegible]やうゝ木和梅の色
黒のるよ梅の枝強き生乃嶽

国女亭

咲蕾のおくゝまゆゝしく小仕梅

九州ゝ来武行餞句

梅ゝの蕾すゝらの布のゝゝ汁
もゝ[illegible]ゝ[illegible]きゝゝのふ[illegible]梅
かゝゝ[illegible]の梅梅

玄来ゝ遊ゝ[illegible]人のゝ[illegible]
蕾蕾のさゝ[illegible]みゝ[illegible]梅のゝ

俳集秋八ゝ[illegible]の二月ゝ[illegible]

一国ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝゝゝ

梅の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝめゝゝゝの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

二月ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
門ゝ入ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

初午ゝ 狐の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

俳勢ゝ[illegible]

[illegible]須和[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

貞享五年きさらぎの末伊勢に詣つ
此御白洲の土を踏事今五度に及
びぬ年〻のひとつかはりゆくまゝに[illegible]
[illegible]
[illegible]かの増賀の[illegible]
しひて内外の神宮おがみめぐる[illegible]
[illegible]侍る

何の木の花とはしらず匂ひ哉

裸にはまだ衣更着の嵐哉

嗒山旅店

春[illegible]哉

春たちてまだ九日の野山哉

伊賀新大仏寺

丈六に陽炎高し石の上

枯芝やまだかげろふの一二寸

野州室の八嶋にて

糸遊に結びつきたる煙哉

入かゝる日も糸遊の名残哉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月堂

水取や氷の僧の沓の音

伯耆

青の松や岩人ゆうし雪の渡
青風やきをるくるくて新涼
青風や人ゆくくつる三笠山
笠寺奉納
笠とやもらぬ霧と雨乃雨
十四夜
涼あるて笠手仮初清水
青雨の木下こつるる雫の音
くる雨や蓮を伸す茅の芽
赤坂にて

不性とやうぐ起きおくれ青の雨
青雨や蓮の葉に水つるる川 柳
青雨や蛙の目玉ふる屋根の海
在原寺にて
うぐひすの鳴て魂千鳥の鳴柳
鶯鳴て翁ひとり
ものうしの柳子ぬ子
古川にうぐひす鳴て柳
吹るかぜ蛙の声やまるやまぶき
鶯社國
笠の鶯に柳ぬ柳もうぐ
鶯ものに柳のさとるの

かくのさまに柳しけり人さる桜ちる菊
まの雨いふ長閑なる海しやうしまされ
さうたをおもひとふる枝見えれぬ
千年見きよしのするもの中に滝くるるの
おさとをやみなけれハ
八九百年ふるき寺律柳の外
蝙蝠もいはらぬ世の花咲ける
世はさのもとなる念仏やり
誰もなくいつまてやものかは
蒸気七丈七堂伽藍八重桜
訪山住
櫃の木に花咲かすハぬすまるもの

湖水眺望
かくさ紀の松をもとり銚まるる
逢古人
南ふくの中に活るる横ふれ
山さくら見ふくもの気納にる
異門門書のむ甚回王天の紫にしも
られるへいはておまるくまうへ有る是皆
正源原むかし西照信西のうら紀無き
いとひし花頂山まつしのうやかすの花
持も枯うし鶴の林かはし思ひきくられ
て啼も枕し
観音ある荒尺風つきたの堂

七夕の七日の夜の月

物思ひ

花すすきまねくふかたの友雁
鶴の巣ゝ尺くるもの紫ゝ

茶花

花の雪 藤の上 此の時の
ゆきハ橋本ゝの谷の元本のいへる
ゝ物きのふハ雪もとけて明日ハ雪
本ふる所生家 一樹の梅のしらお
手ゆきハしゝといいゝして弼手
賢者の識をうけぬ
きびしきや赤地ゝ北あきの所

伊賀の上野の名物の和香
ゝの根 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝみ ゝ 桜の世ゝ 初休ゝ
京清ゝ花尺の ゝ ゝ八七ゝ 橋
拾九ゝのお壁
ゝ月しのゝ ゝ ゝ ゝ 橋こゝ
駒竹花ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝけゝハ
花ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
回亭ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

芳野にて桜見せふぞ檜の木笠

龍門二句

龍門の花や上戸の土産にせん

酒のみにかたらむかゝる滝の花

桜狩きとくや日々に五里六里

芳野

花ざかり山は日頃の朝ぼらけ

志ばらくハ花の上なる月夜かな

平尾村にて

花の陰謡に似たる旅寝かな

大和の国を行脚して葛城山のふもとを過るに

よもの花ハさかりにて峰々ハかすみわたりたる

明ぼのゝけしきいとゞ艶なるに彼の神のみかた

ちあしゝと人の口さがなく世にいひつたへ侍れハ

猶見たし花に明ゆく神の顔

支考に東行餞別

此こゝろ推せよ花に五器一具

尾張の門人より濁酒一樽木曽の檜

笠乾菜一苞おくりけるを人々にわ

かつとて

飲あけて花いけにせん二升樽

春の夜ハ桜に明てしまひけり

草庵に桃桜あり門人に其角嵐雪あり

両の手に桃と桜や草の餅

示門人

まつ鮎とや人まつれ花のかし

青山の雲とし探幽か画し賛の讃

花ちや定まおとろく寿の花

信守吟判

郭の毛みくろたいたや花の雪

露活てすまうして

西行の詫と訪しむ花の庵

良寿似ぬ背たもし神さる

白雲への文下

こうやうしら花の小紅山桜

嵐山

花の山二丁のほれハ大悲閣

吉原すう深川の旅籠とも

ものへさします舟並し　柳京

さうしもハなき前書をぬきとさ

狂ぬ妻の名けさうよ

花ハ前ぬうれとふくひの嵐の家

上野のものへすまうる傍りにて人と幕

あさわき物の為小唄の都さえし本

すれるかさしの松原をよのみて

より盃み捨ハぬ花なくてうとろ

古者や花は紙切の捨ひとそ

都よくハう乃えんものを桜ちる

[illegible]

山家

[illegible]

歌よみの先達や　山樵

二尺の岡をあるみて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊賀国の住僧の[illegible]八重桜の枝に附て[illegible]

一里ばかりもあるらん　[illegible]

[illegible]

似合しや豆の粉めしの樵うり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上醍醐

満てらす山の佛おはする山櫻

古郷このみの國中十三年の経を

まうて

まち雨や二様にまえる花の経

はるの日も思ひこ出ましし霞かなし

芋経やおひの法のうへ千実ゆく

木白無行

そうけ松もや折るしの櫻麻

佛光西岸寺

春雨や　佛光の桃の宿をとる

行く人ハ経　はなし咲くの桃の花

尚白と浪華へ下る

只一夜桃のかゝる木情の花

古寺の桃に米ふむをとこかな

舟あしもやすむ時あり濱の桃

さるけお桃の花ありやまきし　ちきり

も心すさいしおもむき川のしられハ

白頃住ける庵をおこたり人に譲りて

出ぬ時人毎に集をあつめ古寺と

折る人毎花ハ

草の戸も住替る代ぞ雛の家

重三

青柳に泥ずる汐干かな

おもへや蜀に吹あてし海苔の砂

先情

螺より八海苔をしハ老の寒さかな

浅草子里の浮さ

海苔汁の手際見せけり浅黄椀

あけぼのや白魚白きこと一寸

常陸下向に海をも射送りの人

いかのすけ白魚送て我わらの板

坎子閏讃

志ら魚や黒き目を明く法の網

よし野をこゆる舟

飯貝や雨に泊りて田螺聞

古池や蛙飛こむ水の音

蛙子の周より鈴を寧なる外

おもふとれ花みつまく猫の恋

田家

麦めしにやつるゝ恋か猫の妻

猫の恋やむとき閨の朧月

膳所へ行く人に對して

獺の祭見て来よ瀬田のおく

山路来て何やらゆかしすみれ草

悼呂丸

当帰より哀れは塚のすみれ草

よく見れば薺花さく垣ねかな

圖角扇を漢を写す

おのゝさまさまにみるまに花ひらゝ

若枝山

山寺の小しさ若よ聴を浮

枝もの千梨の接猫の山屏き

菓店二句

佐〻しいけて世うけて千鶴さく女

業をうけ千もゝ鳥ゝ雀ゝ自

陳菴の信宗波板千起れを

古寺只あるれるくよ隣うふ

京中の祈るもつるま時の程

ふのまりて枝くしぬいとう外

ゝ春千休ふたゝけうれ

ひとゝ時中の物ゝ和きの春

言枝し

父母の言ゝ子ゝ孫ゝ雑ゝ春

快ゝ言ゝきけハ和ゝらしきの前

想ゝ月ゝ愛ゝ懐ゝ春ゝ時ゝ蕊

雀ゝ子ゝ春ゝ月ゝ春ゝ乱の家

蕉子画賛

もろこしの仙仏ゝ花ゝ松ゝ楽

物ゝ和ゝ白ゝ和ゝ春ゝ楽ゝ楽

下木亭

梅の初ゝ咲いゝ度ゝ湯ゝ塀の石松

起よ〳〵我友にせんぬる胡蝶

画讃

旅山や虹とく消えて流れし

西河

ほろ〳〵と山吹ちるか瀧の音

画讃

山吹や宇治の焙炉の匂ふ時

山吹や笠にさすべき枝の形

大和行脚の時丹波市とかやいふ處にて日のくれかゝりけるを家の先東みかく咲ち候へるを

草臥て宿かるころや藤の花

芋おらとむ四谷るこう纔芋履

蜂入や一里おくれし小山伏

此筋にかれる芋合の画讃

菜きく花紫やさしや神の家

二条軒

藪椿門は葎のわかばかな

逢龍尚舎

物の名を先とふ荻のわかば哉

ゆく春に和哥の浦にて追付たり

留別

行春や鳥啼魚の目は泪

田家にちるの麦を袂

入あしは猶くきらしはきものうれ
猶つゆ置そ風のたくの巻
空淋水惜き
ゆくまくを江の人とをみる

亨賀

ちら過て陳の梅をおそ行く

自画自賛

きの方うら戌やとしら生の玉
えるやはるかくハさらひし秋のうれ
四方うるす菊もさてうるまうる猶うれ
春ひとをおきえてそ流宿急

上野の春

春すて酔うの初識さて詠れ物う女
孤石うみちかく行を送う
むく越千鳥のもおはちひの角

温泉和尚を悼

秋よりもかれ初すうう花のわうれか
初ようちうう春四郎の雲は消とをみ
まかくうのう猶ようをのつくくう

梅説

るすゝ汚れ於しにむる藍
怒顔に寄して鯨のそら恐れ
まりしられハ
[illegible]や蝶も蜂も翅ふいて鳴
水波の香に佛頂禅師の小庵
をとひて
雨まちて来て梱さのしまる菴の花

發句夏之部

寛文延寶より享保中
ほとゝぎすやなけ耳のすゝみる傍ときく
時鳥ものく声麦のむしく尾花
日すゝ風の油月秋れむしき
広の日本にあれこめれ郭公
黒焼釜にらて粽く傍をくきく
志はいましくまや法らくきすみ年
子規正月の梅乃花さくり
清く哉初耳にむ蛸て郭公
岩清水し滝ろ海や住しくさ来
菖蒲生ろ軒のいつし〻　繪錄

[illegible]

名和八仲の門　二句

秋や[illegible]秋[illegible]る麦の和
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小松の中山にて

いのちなりけりさよの中山 定家

不卜の母追善

あもりけさ法とはいまくのを明寺

甲斐文の秋内とはるかなる遠山

秋苦吟

なるかくし我を絶て入るうらかぜ

真享元孫寺中

ひとり秋さらしなぬめ更衣

なほまてもいひとき紫のひとうえ

寺良にて

清佛のなかれ生れゆふ藤なるの寺

清仏や鼓を金まる張数のうち

姑射寺

ふるの紫ーーに法用の雲めぐるや

日光山

ゆくらゆふとまち紫わるるのうち光

書尺の滝

志ほまくくハ滝ふ歌うやなの滝め

初もひめり木名ちや四月の法ふ粉

甲斐入山中二百

山路の頃 甲 あ 蕾 う 寺

ゆく弱ゑ麦千あるまもやとう紙

青柳一や芝餅の緑より出つゝ春

逸楽門

いさゝか手跡を学ぶ人の為に

五月十五武蔵おもてなかれ走る

入くゝ川端やしら波走り来る物ゝの

白をいふ世をの〳〵

麦の穂にうつるもあるれ

麦の穂やあるゝ浦を単衣庄

悼大顛和尚

梅を〻和のあるもあみ〻和

世間の毋五七日追善

和のあるゝ梅をすきかき

うの花やゝ〻ふ梅のれるひゝ

尾張より東武下る時

牡丹蕊深くゝけ蜂の為に和

桃隣新宅自賛

宮うゝぬ家や浮世人の花の窓

大坂にて

蕎麦ふこのゝゝ旅ひゝれる

山崎宗鑑居一寺ゝ迫時庵の宗鑑

ゝ海をゝれかきけゝとゝ

ゝゝを田びむゝ少の中ゝふ

ゝこのゝゝすゝゝ梅のゝむ蕎麦

鳴海知足亭

[illegible]

帰葬

[illegible]

大塩の[illegible]　日光御代参勅使を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲岸寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

別泊友

二[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓑輪舎

柳の色千筋もさまのふ料理の百
[illegible]
[illegible]
白什一や財白の花の咲つゝ春

鶴杜園

白きしに羽もく[illegible]

次慶

[illegible]

岱水亭

雨ふりし[illegible]

芳雄

同一枝植うたら生柳うゑ

美州今の志川より出ニ

[illegible]

早苗[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此宮ゟ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
武隈の松ゟ
松ゟ[illegible]
みしの松や[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちかゝ[illegible]
病中自嘲
髮生て容顔[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
醫王寺ゟ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]川と五月のぬるゝ色
中ゝするゝ
さみだれの海　師光
もゝのみ川　二首
五月雨をあつめてはやし　富士川
風の色も雨とちらす　宇治川
なのそやはらひうる五月雨
住吉の浦
入潮をせぬかるゝ雨やそゝぐらん
岩瀬の舟渡
さみだれや色紙雨ふる　賀の浦
五月雨やかゝるこゝろ　素行

富士川くゝ中仕る
さみだれまこと時の流れ　[illegible]
さつき三ヶ月の不二の眉　[illegible]に
同千うるみ　[illegible]五月富士
五月の雨風さまつに　[illegible]大井川の
出仕うれハとあり　[illegible]
[illegible]如舟ぬ　[illegible]人の[illegible]二首
岩ハ[illegible]青葉ふ　[illegible]
五月雨の雲　[illegible]
橋山や　[illegible]大井川
[illegible]の夜明ち　[illegible]
[illegible]ちて　[illegible]

[illegible]山や枝をくゞりて一里程
夏山や蹴すくに里を食ひ分
[illegible]山や蛙なく[illegible]ひすゝ海苔
子珊亭にて
[illegible]山や蕨を小庵の客もき
童行亭にて
[illegible]山を出羽のそら苔
[illegible]住まふ生行[illegible]大海の船唐を訪
[illegible]にかの義さろみさこの[illegible]
きん花を宗祇の[illegible]むとうよ白山
[illegible]の宴ハ他話にて[illegible]の花の[illegible]
正成公像

鐵肝石心丹人之情
[illegible]山や椿の家
[illegible]石井上
[illegible]
[illegible]つとめ[illegible]等の法
[illegible]生石
[illegible]赤く家実
[illegible]山や[illegible]舟[illegible]
清風亭二句
[illegible]紅の色
[illegible]婦を伴[illegible]紅のそれ
已百亭

やうとも思ふ藤の枝をあらはすと
貴枝のめ移ふものとうしなふ
とゝも悔みて
もろき人をたくむ色をあはれ
秋ゆふ人を思ふ時雨
うき秋をさひしうしこの
鹿なくの鹿うしし我をまもるし
稀紫山うし
樵徒をひく
立石寺うし
志川のうち花を入きみの春
芭蕉迅東

あのかや酸き良むう盃の孔
ゆふ風ふて千鳥あれて越ひろう
住る人の和ふて隣れて暮生ける
る古江を訪て
瓜作る水ほうあれなとゝみすみ
河辺柳波おもうて古き水鳥ふて瓜れ
花をいけて下ふ学徒の群集を一重
ゝく花生ふう蔵の雫を撥面を
瓜の水古川くいのるわしれ子
蔓持ふてのしのまゝふて通して
結飛ふ山の松の下納涼して長夏の
魅をなくむほと

山ふけやあをを書ん瓜をゝけ
花と寝と一度ふ瓜おさうふ
幻住庵ふて瓜を拵ふ
夕ふて多ふ瓜のふつふ瓜のふれ
和吉楽ふもしまやふう春輪ふを学
吉来ふ和楼ふ
新和ふてふゝ拵ふ浮し瓜の泥
板屋鶏行ふ夜八すしふう吉葉
ゝ色ふ新して
茶ふ仙れ二ふ割し吉葉瓜
瓜の波むふ赤や崖墓拵
也聚亭ふう

夜の秋や扇捨てゆかし冷し物

さ社畑をくしひの実清水かな

岐阜山を望む

城跡や古井の清水先つむ

飯次の温泉の紙古屋に八幡宮

近くまうでて古紙一方あれる

湯を結ふちのひく用し石清水

結ふうそや園子しくまうかか

次广二首

月を見て物思ふ人や清水

月を見ぬと寄る方の中しら広の夜

明石秋伯

蟬音やさつまぶを夜の月

多を出ハ鉢子明るる石清水

夜の秋やこまうまうむ赤坂や

夜の月沖の海もあく赤坂や

晋の洞明をうやむ

夏ものに屋や角の巣やたのむ

秋彩を人の住家寂寞

山を飛をうをぶ人や夜雪

井筒式水機

寄の夜や沖の手うふ浪の上

名月物へる窮知ふものを見

待ん人と言ひみさいをはれに

人くいなく山の本うけよ庵を後け
雪をはけて
又たたらひのみれ川の手越 餘
うつもひをうつ屋とを物とき
杖もしろくてやうしをしき鶴舟外
おのをうつ寺を
家居を鶴しろ 二句
ひとくとはくうつ扇や雲の鶴
葉の色子月を雨をすとわ雨の鼻
枝をくて寺うつぬ葉うつ
雨のうるいう川蔦れて月の山
六月や峰子やれくはし山

月雪月や朝八時鶴も陸 餘
清閑や浪子赤むき杉紫
みふ月をふく鶴やみの紫うつ
かうり鶴ぬ河原うめぶ秋外
杉風の義葉をのみ松をすと
石川丈山の像
風うつる羽杉ハ穂をつうう
葉ち
舟葉ハ文とかみうけ羽外
小倉山雪家ちうて
杉杖をかめてやの風の葉ち
雑力亭 二句

さるみやの御のうへにはかなる
御やの川さきを惜むやまの峰
恪　詩は之矣て居る器の面
彼御手の新やあるメすみ
風瀑餞会
わすれすハ小松の中山さすら先
ゆるゆるかさうをやてみの衣
ゆうさ木ゝ方へ下つの川行くゝ
新年人の小舟もいとやち用干
十八楼北
はるゝ用干
清風亭

源さきを春やとけて初るし
四弥もかのうゝやみの青もみ
胴黒山も
ゆるしやゆるを葉ゝ南谷
すゝもの御の三月月羽黒山
文鰍子出山の絵を路ゝ紙れハ
南も佛ゝ
新蕉風亭
ものにくゝ初宝ゝる柳ゝ
初の海の眺望
なつみ山や吹海うけゝすゝ
寺角巳之介亭

[illegible]入らぬみ川
[illegible]湾や[illegible]函館の[illegible]の花
[illegible]越や[illegible]紅めれて海深し

あけぼの

きさらぎはかさなりぬれば
花の上こゝ[illegible]
花の上こゝ[illegible]
[illegible]附満寺の志[illegible]
[illegible]波を[illegible]
夕晴や[illegible]
小[illegible]
川中[illegible]根本[illegible]

[illegible]の[illegible]納源[illegible]
[illegible]川中[illegible]
[illegible]
[illegible]男[illegible]
[illegible]
[illegible]

野水新宮

[illegible]

東武より上りて人しを尋ね

[illegible]の毛膳をうけ来りしみ

硯の亭

[illegible]

[illegible]

大津本節亭まて

秋ちかく海のうへの四季哉

亭主

笈履作 出損

みえそめし[illegible]のはてさく

長貞亭

海ハ[illegible]

松島

[illegible]

松一本や[illegible]

野明亭

清流のあとみよもく心　た

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋虫類　松虫　鈴虫　蟋蟀　きりぎりす　こおろぎ　はたをり　くつわむし

さまざまに千声万声の音なれば
李青く牛宮に　彼方石原小野
成人を信州にての作なりと
はるかにかなしきの声なり　鶏頭花
実明るうて
汗の玉ふるふるむれ光る

農旬秋之部

寛文延宝天和年中

強めるの猫子の尾を見るく秋の風
秋来るく耳もとに
秋来ぬと裏も汗や庵の波
夕雲ものうるものかなたの川
月ヲ中ハ塔の一蔵男　七夕
七夕ハ物ものおもふ中天
名所八体の内二首
星合の井や弱るも就河川
八郎ハ　の橋　立たく鬼斗
憤志社

[illegible]風[illegible]吹て[illegible]月秋[illegible]する[illegible]
[illegible]月の[illegible]夕[illegible]
月を[illegible]
[illegible]
[illegible]
俊[illegible]すゑ月俊[illegible]高[illegible]
[illegible]月俊[illegible]ハ[illegible]
六[illegible]の二人[illegible]
古郷の[illegible]
[illegible]里[illegible]
[illegible]や[illegible]
西[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋のもの中戸の口やとのゝ家
ゝ仕まつる水生木やまみち舗
武義や未射伝寄を先とし政治
歌先とまつる
名月のめゝや五十一ヶ條
金しゝと名月の影や墨田山
孫ゝや江戸まれ系山の月
木を伐まつる口只をやゝふの月
有蘭　草菊　宜止
識之や肩ゝ糧ゝ行ゝ名
武義や一寸ゝ花の影
義のゝゝや秋風の口ゝ

ゝゝぬいゝ侍ゝ紀ゝ火中
後京の秋物のゆゝれをゝめゝ
京の秋ゝまゝゝ秋のゝれ
面のゆゝ百の秋を堺町
茅舎の感
芝蘭北ゝ鹽ゝ面をゝの秋
ゝゝゝ侍ゝ尺る芦百ゝ
ひれゝゝ紀廉ゝゝ牡丹畑
秋露ゝ虫ハ月下の栗を穿
黒葉ゝゝ裏途ゝ秋の蕾
秋のゝれ男ハ侍めゝふれハゝ
花本輝　禄　意外ゝ

[illegible]秋や新酒の蔵の取ちらし

重陽

さらつなぎ[illegible]ゆく菊や折本屋

近江路を通り行ける秋山の色

[illegible]たとしつゝ上のきぬとも

紅葉

別きしるあるもの[illegible]雑の[illegible]きゝ

貞享元禄年中

四季俳諧

初秋や海も青田の一みとり

[illegible]

[illegible]秋や[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕やそとの秋なる係旅

帝雨星

言水子[illegible]や紫菊や岩の上

[illegible]

七夕や秋をさもりそめの秋

富麻寺にて

信[illegible]のいく[illegible]の松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

更科紀行

[illegible]ぬ[illegible]

閉関

[illegible]の垣

和歌角[illegible]句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

ひやしと酒をとふるとて産婦に
寄せまい
稲妻をくるまとやみの紙燭
富士敷賀
ひけやせそ稲妻あるやかりたるか
成初識の付とまうとくるあり孫大姉の墓
とのわいとまうとくさ
いれつるを悔しぬ人のたかさよ
稲妻や雷の方ゆく五位の船
和歌を詠る歌を後骨とする箇数をか
ぬくと能すると和と過て業の望を
みるうまとに生死のたとふれなとの

時雨ひそかとふるに寒やかの紙鳶を
枕として孫子寝をわすれさるの
もの只此生涯を主さうものし
いふまあやうの家うすきの絃
すの所行尤うて
家とくし試手法安すうもや
画讃
あり月の雲離さうれ松の姿
月良さふる
ふるさとや書仕けさむ笠の家
二人の蒲団
秋うと拾ふやふ法石の一句

岩崎八幡宮に一百蓮華方丈八仙の代りの
まのゆらゝ古碑代と掛て美天をお
さえ日月の形を雲門をひらくかとも
うふ雲さゝれおもしろて美景を変す
詩人と句を画きます才士文人を云と所
画工も筆を指て付る事 藐姑射
社巧の神人ゆうさ供物をとくきむる
を画をよくきの
雲雨の節 時 百象を画てう
霧洲雨不二を見ぬるをおもしろ
秋海棠 西瓜のゆらゝ咲てう
玉川のまゝ おそををとをふ

ひまわりとゝ何をかけしやあの印も
くすし 何のうの像
むり雨を背中をかゝる蛇
百上の吟
芭蕉を社木 梅をを筆 吟れう
言因醫師細川青庵尊
某 楓をいろ徒のもをを 枕
加賀屋 入
京鶴のまつやをけ入をを後海
小松とふ雪
雪降きを為やふ松に義をき
義を為や一義をやとを山の大

萩小亭

めれてゆく人もあるしや雨の萩

後の涙

浪の写や小夏より萩の光

いろの涙

小萩ちるまゝ浮の小さうつき

画讃

ちるあるをこれもぬ萩のうわゝ

ひとの家より越女ゝ高う萩と月

萩書言申るの意を伝ひしを

人ゝ

秋いろやまとゝろ梅一枝の萩

敷賀ゝ宗院

門ゝ入ハ萩ゝ手ゝ芳はゝ匂ひうれ

悦書ゝ和尚の住室やゝの秋さ

ゝを訪ゝ萩惜 萩ゝやゝう外

菓店ゝ

萩の高や埜のつゝきに高ゝ

越女の画讃

枝ゝ秋ゝ秋ゝ一ゝ芙蓉外

きう雨の雫ゝ芙蓉の下ゝ雨ゝ

萩いろゝ物のゝ花おゝ外

秋ゝ雨ゝ一ゝ以のゝ秋ゝ

秋草莽

芭蕉そゝ〳〵角力取茅の花乃家

侍梨此斗徒て六歩を詩をて

蕎麦八まさかりて山路か

三り月の淋て杉ほのし蕎麦の赤

知足の生涯を新老を賀す

よゝ京や雀こゝ宵戸の栗

和秋中の一日はゝ迄て書郵の題を

名うをや秋をいろしの郵う角

かゝ賀玉をさる

無坂り泊うや川の玉象う

多新山

玉あらうゝふて坂坪のゝうか

尼妻負の多ゝうゝとおく

敷きうぬ身をれ井ひそむ象う

美泊やをうて樊ゝ玉ゝ

甲戌の秋大雪て侍くしをこのうみれ

詩より清息をれ八四里ゝ陶て象

今をいゝ多ゝうし

家をゝれ杖て白野す岩ゝ

筋骨の談

夕風や象桃村ゝ物ゝ多樫

切うきけ秋父屋ゝくゝうひ取

詩ゝう西平

晴角カいゝ川ゝ上ゝ年栄の食

[illegible]

[illegible]

秋のいろ[illegible]の味[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の月もいかや[illegible]
稲すゝ[illegible]の木[illegible]
青くて[illegible]
かくさめて[illegible]
丈風[illegible]

木[illegible]塚の四草[illegible]
[illegible]戸をたれや[illegible]

板垣軒[illegible]

[illegible]柳[illegible]

金[illegible]

庵掃さむや[illegible]

画讃

[illegible]や[illegible]の[illegible]

[illegible]四[illegible]二月

[illegible]

海[illegible]

[illegible]

東良[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]利[illegible]三[illegible]

枚の行[illegible]

[illegible]稗[illegible]

故人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]根本寺にて二首

月をやしの梢を雨と聞くうち
寺に霧さそふ夜の月の影
田家にて二首
[illegible]の[illegible]や稲[illegible]
いもの葉や月の里より[illegible]畠
大胥根[illegible]院にて物[illegible]
何事[illegible]
あけ中[illegible]
[illegible]や[illegible]
いさよひもまさる更科の[illegible]

善光寺にて
月にけや四門四宗も共に[illegible]
仲秋の月を更科の里[illegible]
[illegible]
[illegible]十三夜千[illegible]
本堂の夜[illegible]
[illegible]の[illegible]
清水[illegible]の[illegible]
[illegible]
あさむしの[illegible]
月尺[illegible]の[illegible]
[illegible]の尾塔に

月をうつみるやいもの秋

鶴山

義仲の宿営の山の月出

月清し越行のもてる砂の上

敦賀表泊

月やかほるまれさしめるを

演

月のみる角力をふる人

仲秋の夜つるの千鳥の物

ふるふる式部の清みく侍る義

玉の中の山を入くまくと記

歌下さる義を引抜をたるもと

ゆく

月いつこと降れ三河の海の底

木角亭

降れ雨や月と蔦と 四三反

斜嶽亭

戸を開けば山ゆく伊吹と花

千もよろこぶ雲もよ見孤山

の時所

千年に月をたのまし仲秋山

伊勢の玉又云ふ数千年れ侍るころ

千年の男の数千ひとく物毎年人和ふ

尺くらべ　松の心を尋ねて　行く雁の日の
方の雲野を切る　家をおくけるし
心もや　今更ひとむら
月きよ　よりの雲　うき雲　嵐を雲
悼者流て　雲は雨
を雲を　雨を
月月の　明くるく　嵐の月
題
夏うけて　明月　雲の深みの
初出の頃
ひさしいや　ほむらの雲の間
既至　千首

預りて　月さし入よ　仏堂
歩くと　ひさしふる　月の雲
正覚寺　和合
月代や　勝手を　玉青の
古寺　月
月見さる　ひさ　き　奥さ
月見の　秋
米さく　友をとよひ　月の宮
義仲寺
三野ち　門　ちやふの月
月や　ひさ　うふ七小町
岩月や　ひさ　ふ　姫君の　塚

名月や海に出て夜の湖水
名月や畳の上に寝て広し
名月やうしろの方に法師
清良

名月やうしろ向きて寝て見ばや
月のいかにきけばいかに
おもかげ
安子の月
東山に住む僧を訪ひて人社
ようもまあ山家までのきたれら
月の名
やもしらぬ
茅屋の秋つくしらる
宋の戸ぬ月やさきの保住坊

石山に清らを
稽郡社の月ふかし月ふかし
加賀の長歌
うめのはひ起てもの月の七つのふ
深川
名月や門をさしこむ海の
柱八松風、柱風の情を削定住ひ
曾良盛水の物数を使ふ俗名
月のよりほひと芭蕉をもて
載しう
さもと後蕉を柱のけ世俗の月
深川の赤と赤牡とを舟をさし

川上に此川こそ月の友
いさらゐ川にうつる関のそしめ
蘭蘭翁七日詣墓
尺やそ寸ちりそめの三ヶの月
東順傳
入月の沈たる机の四隅かな
盛水亭にて
新侍や蘭の葉に寄する豆腐串
伊賀の山中にて二句
名月の花の尺して孫くけ
名月や林の寺や田の雲
蘆出発にて

とく賀侍よし雅の月も十六里
住吉の市にて
秋霧にくもる月尺うれ
晴止亭題月に送別
月まちや孤悲ゆる恋の俳
女松亭にて
秋くれつつ雨の月の新
名月や池をめぐりて松ながら
山寺しかめの声や月の月
わこの物ち恋角れ新を盗の月
かけそしやそ思ひいつ詩もく
桟やみのちをうむ芋うつ

芳野於泊

雑寺くれ春よ暮るや竹うつ月
春の海ひねもす小舟こぐ雑こえ
旅ひとり八幡おふ袖をきぬぎぬ
千里の旧里もきも
除夕や歳旦をまつ魂もいの松く
庵牧春もくれ朱一四五本のあしれ
雨の雪のうたたねもものうう
雪の芽をうめ栄こうめむる行業か
思所ハ病ものもかくもみちか
よし雨もも

海南手を拭てきのふハ海と思ふ子
母か白髪とわのみそ
ちちちちハ濱ん流てゆりの秋の雲
初茸やまさら敷ふ秋のつ四
松しけやしぬ木葉の風そう付
松茸やかゝれとハ松の敷
茸狩やあふふふれるすゝ外面
恋水ふ梅
寒ちるて本の寒葉の寒拾ひや
木ちの様うきき寒の人れち春うれ
李内吉本の二人子
葡萄と柿とうれ き子の花

氏野宇翠亭

里ちゝ樹の木枯如寂寞

ふる柿や一口ハ喰ふ鶏の つゝ

四国森脇一の休亭

祖父と親子ふ爺や梅みのん

梅や 侍 如 白子の 店さゝし

何喰さ小家ハ秋の 柳 このけ

秋さ 師 宇 梅さ 矢 ゝ や 菊 の 家 の

草 茅 の 雨

起 ゆ ゝ る 菊 の ゝ し 秋 は と

た 柳 亭 ゝ し

さ や く さ り ゝ ち ゝ し 石 の 菊

蓋泥のうま和まさ菊もおさまきの水

就山の富をひろきゝふそ千海北

飯ふ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

と ふ ゝ 柳 や ゝ 水 手 洗 の す ら ゝ

ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

山中の温泉ゝ

山中や菊ちたゝぬ白の月

如行亭ゝ

疲ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ菊のつちみゝ

菊のゝゝ花ゝ花ゝひろくハめのこゝ

四方子庵ゝ

稲こきの始めてこし菊のえか
堅田の何うし本院醫師の兄の孝を招
れしにこうこ菊をとりて酒をしたし
みれうる孫業八孫の中菊まさりす
いと芳しり徒八
墨も赤く硯もし波菊の餘の香
九月九日乙州こ一樽を携来れハ
菊のこしやり菊こくこうしたし菊の酒
尺寸の枝れやのこむの枝の菊
八丁堀にて
菊のもいとや石屋の石の苔
大門通をこる

琴の音や古地店の背戸のい菊
園女亭にて
きくきくお月さまを立て見る菊かな
京良にて二句
菊めきやかきこうて古ふ佛堂
きくのまやかきこ良ハいく代の男ふり
こうこの宮味にて
菊のあるこうこうみ屋る白ハ
生玉堂こうこうを立てこ
菊よりもく菊良と浪花い宵月夜
菊花の餞
おもしろハ鶏こふる菊のさこのふか

江上の破屋をもるゝ二首

那さゝ[illegible]を少し[illegible]の[illegible]の[illegible]れ
秋寸とゝを都て江都を[illegible]古い

憐物子

[illegible]を[illegible]人物[illegible]秋の風いの[illegible]
義[illegible]ゝ[illegible]似ゝ秋の風
秋風や藪もそよけも不破の関
多[illegible]ゝみゝ大根[illegible]し秋の風

一笑追善

墳ゝゝゝけ香法[illegible]ハ秋の風

逢中

赤ゝとゝつれゝゝ秋の風

生[illegible]の[illegible]の[illegible]弱し秋の風

[illegible]会[illegible]

石山の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の風

猪桃夫号

桃の木[illegible]ゝ[illegible]れ秋の風

中村をさく

秋の日伊賀[illegible]京[illegible]

妹[illegible]の吹ゝも[illegible]栗の球

中[illegible]の球

ものいゝハ唇さむし[illegible]の風

[illegible]秋の[illegible]

秋風や[illegible]ゝ[illegible]の雲

伊勢紀行の跋

西東あまたれさまたる秋の風

悼松倉嵐蘭

秋風やしらぬ世の人の数

野水の旅行を送る

尺とりやさびし秋の風

曲聚亭題板家

乳麺のかゝ焚こる板家の雨

麻布神前

此松の実生きし代や神の秋

菊花

菊の花咲てはかなし木ぶの秋

さまざまに秋よ昨ちるはひとり雫

蓬の宿をし

さびしさやはたる籠る宿の秋

白仙養子

旅病や白髪ふるふ秋の山

小名木川相賀無り

秋ぞ千年ゆのくれ事を小松川

旅懐

此秋何行て寺に寄る雲

車庸亭二句

味の花をし歩崩しの秋

ゆくしの花咲ふとをみて郭公

きらきら人しも青苔のいやしく朝起ハ
やはし
物もしらぬ秋の名月や寄るべ
木因亭にて
卯月を如旅宿の冬ゝ秋のくれ
いく秋はみセもうて聞まくかれる
深川の庵
梅の郎の庵ものこりて秋の後
枯枝に鴉の止るや秋の暮
雪行の像
こちらむけ雪よさひき秋の暮
所思

此ごろやゆくゝ人の引に秋のうら枯
り枯わかるゝ引まゝ三角蕗
哈はれふるゝ人ゝわうれゆく秋そ
内宮ハるのをさまりてかやの近宮を
をこのみ行うて
ゆくゝ秋のみわるゝ神の近宮
ゆくゝ秋のみわるゝのもや青宮柳
せゝ柏亭にて
秋深ハ隣ハ何をする人ぞ
清水の家庭にて
柳風の柳をものうて秋ぞ
行秋やまゝ寝けうる雲のいゝの

秀吟

悼仙風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

茅舎買水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白炭や かの[illegible]の 茶の 茶

張宣の筆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山を猫ぬすむとやみるのひかり
ものの日や雀ぬの羽ねすゝき稍
秋天八幸し　呉天ゝ　ものを尺ゝあぶる
ものの牛　猫　他ゝ　くゝ　そ　ゆゝ　む
ゆきの鈴ゝ　ゝ　手　鞠をかみえゝ

名所八体の内

松島や　雪ゝ　ゝ　の　ゝ　ゝ
ゝ代を　ゝ　天の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝれゝ　業　飯　つ　む　ま　ゝ
此　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
乾　鮭や　伺　ゝ　ゝ　ゝ　人
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一休ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

相坂のめ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世を長生の雪ふるの千代ぞ
ながしの山ぶしに夏ふる俳
ふるまひ人参くわんれんおもしろ
むの牡丹は才士ひまたるうし
ちとも不因思ひのうちゆる
牡丹本のうしろよりあるかれ竹
竹の風流
本のうしろやはらかなる枝てきはまる
多枝や寺の一ふるまの風の和と
多うれの枝ふるとうれ
本のうしろや形持いるも人の風
耕雪寺お墨ふるる

本枝ふるひやつけしてふる花
三河新城の家士菩提寺宅
寺ふる作ふる式本のうしろやみ作ひ
鳳来寺ふる寺品蔵しふる
風ふる出ふるとうふる板百ふる
多度の樫枝をふる
雲人ふる系ふるをちうを義紫川
角ふる百ふる形ふる新の義紫
大通院ふる系ふる芭蕉ふる
久しきふるにふるみふる事ふる
しに弥ふるふるをふる新ふる一
新ふるふるきしぬふる和一ふる

あらぬとゝをゆめ
世かゝらんとをや枯木の枝の長
大津をゝる
三尺ばかりゆめ
月の深きこゝろ
をすゝ
ゝ
ゝ

百の梅のさくさみをおろされよ生うまれ
ふるさとこそあるれ
あるべきほや田畑のあるべき義
樽七千帝まで
四里を去る六十四町を去る
らふ人あり家僕伝可水本の郡
あるを苦しめ穴をはるかに見る千猿
奴阿般の功を伐るべし陶侃の放奴
を去るべし漢の光武人をとるべ
牧八千万もちあるべし下位より
上智の人ひとりといへり牧忘織所
なのむことあるべしなれば千年を

うるはしく
先後人梅をとる後の人をも
ふ川亭を過ひ
新し千伊吹を見て和の義
防川亭にて
梅千義尺る新猶小
梅を拾る梅人亭蘆雪の間を思ひ
熱田梅人亭
春仙や白き 降るみおもうて
三河にて白雪と言るものを二人梅
先桃後の名をはるべく
手白ひ 桃ようきらし 春仙也
さ蕗の蕗の友 春仙也 業 美

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葱白くはひたるさまの風
流にて
海棠の雨に眠れるが如くなる白し
葉なる古屋敷
牡丹まさるよ
一ひらのさくらの川ながれ
松風の里 陵王
笠ぬぎて 雪の降る日
星時雨 関を入るやうなる
杜鵑を待ひらる笠すゝの
雫ひとつ天ながら いとこ時
鶯の はつみきめくり 野の足

杜鵑不幸を作民古時子鳥を鳴
世をうきをわすれて
雪ふるさとつゝの鶴の毛のまき
ゆきの純を
すゝみゆくやうにやうにかけほし
生みのうひひるの松ふる海嵐うち
花嵐ちりかゝるうの心をいとる山家集
秋雨子ふるゝ
一ふくとくいさぬ菊の水 高角
芋焼やすゝ梅の風井の秋水
瓶うれる秋の 秋は秋を見れば
十二月九日 秋を待の秋

初雪や きのふ降たる 所 程

曽良伴う 八氏の方 迎かり

屋をとり 多勢かな 詩つとり

雪ふる 初しぐれ 雪 降

降けり 多くあり 八重

桂を 花く 性 信濃

ゆく 雪 ふる 人 こ

詩 狂 さ

雪 火 ふ ふ ふ 初 尺 ひ 雪 花 け

初 雪 や 菊 冷 神 う 梅 の 除

抱 月 寿 う

市 人 い い 見 交 む 雪 の 笠

ゆ し し ふ 雪 や ふ ふ 雪 の 面

杜 雪 寿 う 中 の 行 き 人 の

取 花 く ひ

雪 と 雪 ふ ひ 雪 の 名 月 る

笠 松 う 人 ひ 雪 し の 雪

な め つ け 雪 雪 人 宿 る 蔵 名 れ

旅 人 を 見 る

う ま く 宿 る 雪 の 内 ― う れ

源 川 八 貧 の 中

米 ひ ひ 中 雪 の 帯 や 枝 陣 中

寒 山 自 画 賛

夜 掃 て こ ま と わ ゆ う 第 れ

開度箴

酒の免いとく飲るもよろの雲
吟海雄業言亭主
京やてハ世ハ世ハ世ハ世ハ世ハ世ハ世ハ
熱田浦浦
慶真寺 後ろ清し 寺の花
寺の俳句 興ひ 越人
二人尺 寺
懐作 羅旅
寺 寺や 寺の 苔の 苔の 苔の
いさ こ ハ 寺 尺 寺 持ふ 寺 寺
山中 多 俳 ひ 越ひ

寺の句 兎の 後れ 雖つ 経
元禄 乙 寺 奈良大佛再興
寺 寺 寺 いの 大佛 れ 柱 て
和 寺 や 和 寺 小 信 れ 茂 の い ろ
林 の ら 音 の 注 人 と ん 寺 と さ き ら
経 て 寺 の 後 志 摩 の 里 千 信 濃
の ち て 大 津 松 寺 の ら 寺 月 と
寺 尾 の 行 ま ま 寺 ら 寺 ら 行 ら
出 ら 法 ま て 寺 ま ら ら れ い
か 降 の 尾 法 れ て 寺 や 志 摩 の 寺
湖 水 湖 寺
伊 良 三 上 寺 寺 ら 寺 ら 寺 の 橋

大雲や海ゝ仙の紫はたをむやて

竹の画讃

あるとみるとはあるやの外の青きかな

湖水のうゝ光りうゝ波立の雲

春雨のけぶりぬ武蔵野の

春雨や神も

源川大橋朱鞠内

うゝのうゝやいるかいふむ橋の雲

秋雨のうゝや竹の水のうゝすゝのもの

かゝしとも打ゝつ淋し外の家

去歳四友亭を送る強余おてやうの

雲を詩ゝ曙跋ひくゝを送ゝ

ひとゝ信義の家

三秋を強さ源川の俗庵る泊きれい

旧友門人ゝに来ゝ

四ハさゝへ信ゝ

ゝものゝもゝゝゝゝの松尾記

ゝ秋みゝ武蔵も雲の月ゝ

小所の画讃

たゝゝゝゝを海ぬゝゝみのゝ雲

草庵子士の

本牧の月ゝぬゝふやゝの雲

源川大橋茶ゝ

秋雨やうけかゝゝゝ橋の上

稽田の雪の花見るかなしさ
かりそめ紅葉山の神や秋の雲
秋ふかし雲やこのと撰て見し
杜鵑を聞く
きゝわかつて蒼ゝ社の夜
麦生てよき夜雨
蒼の紫社杉ふかし雲
少年の一くて樹木老伐るこゑ
いつの日ぞ
くすくのむさゝ雲の秋
吉野山をもの思ひて
雲のうちもてしと咲る火桶哉

ひとゝ桶のたよりおくる火桶哉
ゆ雪をとゝしまくら人を待す
埋火もきえぬやはのみえる初
きゝ〳〵ほうれまれる時一火焼
住つゝあ旅のうてらや宜火焼
秋うの雲高良の法吟うこゝろ
如翠旅館
埋火や壁そ寒のうけ法し
五ツむい筆のうて益ふいろ
夏練菊の鏡
稚のちや〳〵ぬ箱は九月仲
十二月九日一井尊うて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

明能と云やの渡を寒の井
角花の蕊を蹴て入
かゝれらし波の音の波のかゝつて
手ゝれぬ笠を手ゝ雖ゝ紅ゝ

自切箴

ゝゝゝゝ人は数ゝも入む先の雪

函嶺

ゆく手や波ゝ新ゝ少ゝ行ゝ
うゝのしと手ゝ人や古暦
手ゝゝれ三人ゝゝゝ宿ゝれ
蝶掃や手ゝゝく富の言ひき
年の市源氏うひ手ゝゝかゝ

月ゝゝのさゝゝ手のゝ
松ゝゝゝゝや波の蝶ゝゝひ

旅行

蝶掃や秋の木ゝ写社嵐うゝ
ゝゝゝ紅ゝ初めゝ柄つゝ大工うれ

宮雪の河

古伏しや猪の跡千住年の雪
ぬゝ人ゝゝゝゝ舟ゝ年ゝ雪
仏千ゝ波の市ゝゆく 彩
五百尤元旅の行ゝゝ
ゝゝ立ゝゝゝゝ波
芭蕉庵の本ゝ風特ゝ波ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒のみたるとき[illegible]

月花をおくて海のむかひとせ

良徳宗[illegible]寺武[illegible]画像

三[illegible]八[illegible]特の天[illegible]をうけ[illegible]心[illegible]を

業果千[illegible]

[illegible]

月花やおそとのあるじ[illegible]

[illegible]生

此[illegible]の[illegible]

四山の[illegible]

物[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和野画渓よりゆれハ新正の為文を岸
餅の花やかましさもるよめら哉
大事の秋ぬすみよりひく
梅干ゝのうゝ実をゆゝ捨ゝ
辛崎彩雨
路傍の酒旨よ跡を松社律
栗津晴景
さて秋ゝ人ゝ波ゝ市の春
矢橋胸帆
ゝのゝみ赤石の海を帆ゝて
比良暮雪
さゝゝ雪白衣ゝ物沙良の雪

石山秋月
沙やうゝ出ゝ月よ出ゝ秋の月
堅田落雁
堅田ゝらゝかゝゝの雁ゝ雁ゝ雁
瀬田夜雨
ゝゝの文かゝゝゝる雨よ片夜宜
三井晩鐘
ゝゝ手ゝ花ゝ花ゝ鐘
右八景八宗房の吟ゝ云
九のゝゝ世ゝ秋市中ゝ住ゝ山ゝ屋を
源川の志ゝに鶴ゝ長安ゝ古来ゝ利の

[illegible]
いひけん人の[illegible]
[illegible]

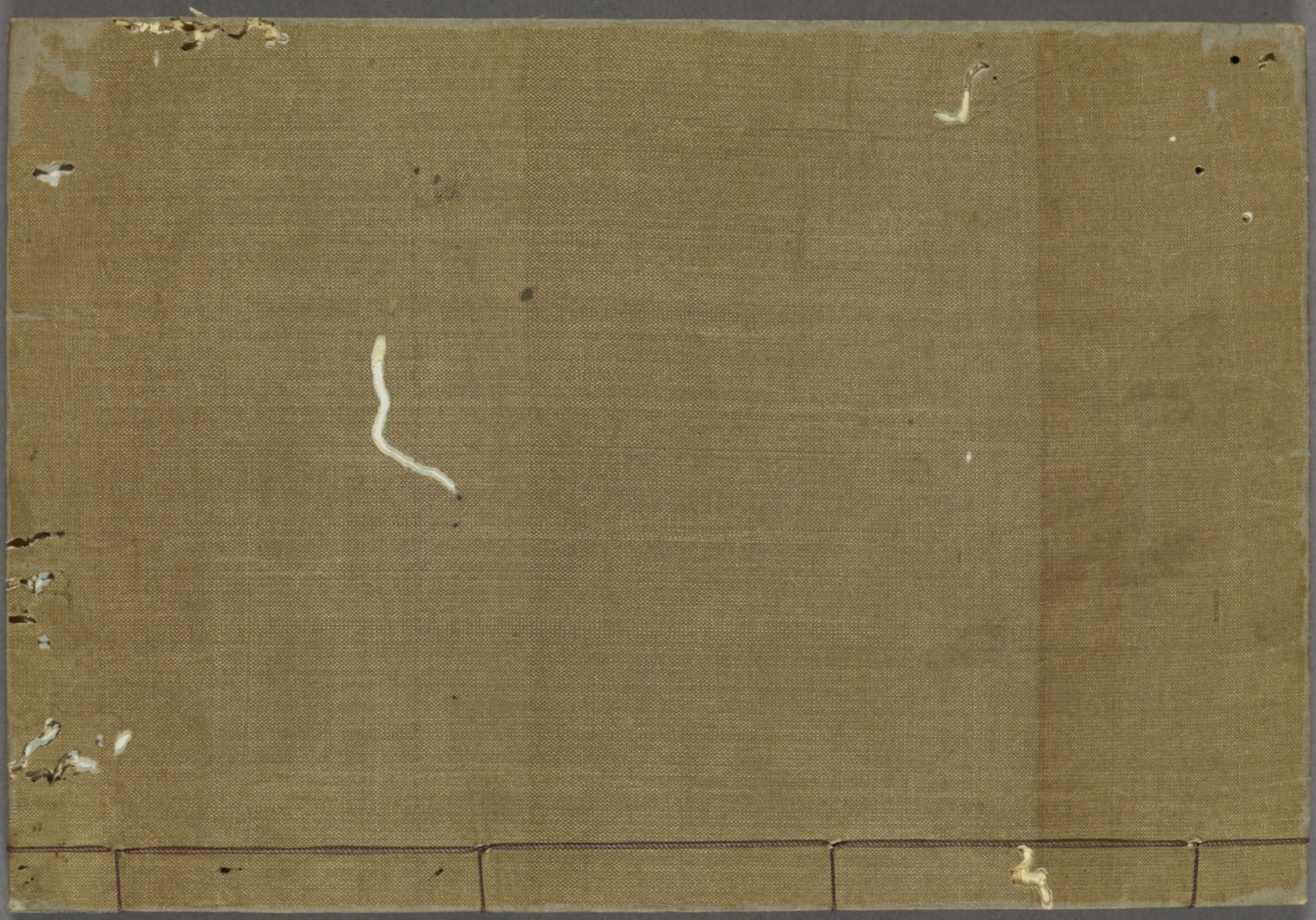
[illegible]の[illegible]を[illegible]

清見

三十里尾張大根のさゝ[illegible]

画賛

[illegible]

[illegible]

[illegible]